審 査 の 結 果 の 要 旨

論文提出者氏名　今村能之

世界規模で深刻化している水問題において、わが国の政府開発援助は水供給・衛生分野で 1990 年代から継続的に世界のトップでありながら,必ずしもわが国の国際貢献に対する国際的評価が高いとは言えず,「顔の見える援助」を目指す取り組みが進められているところである．本論文提出者は，近年のサミットや閣僚級会合などにおいてよく引用され，成功事例と評価される「世界水アセスメント計画(WWAP)」の事務局に日本政府から派遣された専門家として，同プロジェクト立ち上げ期から，計画，実施のフェーズに参画しその活動の実施を主導した．本研究は，その経験と，文献レビュー，および類似の国際プロジェクトとの比較により，わが国主導の水に関する国連の取り組みが機能し，成功裡に実施される要件を抽出することを目的としている．

本研究では，まず，WWAP の構想、計画、実施のそれぞれの段階でどのような要因が WWAP の進展にとって重要であったかを整理している.その構想段階においては、ユネスコ事務局長松浦氏が水分野を最優先課題とし、その推進のために日本の支援により WWAP を立ち上げるという政治判断と,その際に定められた「援助協調」と「国連機関連携」という二つの基本方針の重要性が指摘されている.計画段階では、国連機関と各国政府の役割分担,資金メカニズム，広報戦略などが，基本方針にそって策定され，実施段階ではその成果の初めての発表の場をわが国で開催された第３回世界水フォーラムにするという政治的広報戦略がとられたことが指摘されている．

本研究ではさらに、類似の国連の取り組みであるグローバル国際水域評価（GIWA: Global International Waters Assessment）との比較研究により，国連、主要先進国を含む各国政府などの高い評価を受けることとなった背景を整理して，特定の国・地域に偏らない援助協調の方針、特定の国連機関（UNEP）ではなく国連システム全体による推進体制、ケース・スタディの専門家中心ではなく政府主体での実施、適切な場（3WWF）に向けての明確な政治及び広報戦略が、WWAP を大きく発展させたことが明確にしている．

その上で、日本主導の水に関する国連の取り組みが機能するための要件として，政治的リーダーシップ，援助協調，国連システム全体による推進体制，政府主体の実施，効果的な広報戦略を挙げ，その中でも、特に、政治的リーダーシップが決定的要因と指摘し，リーダシップを発揮できる国としての取り組みの要件を整理している．

結果として，わが国の比較優位の国際的課題に対して，政治的リーダーシップとそれを支える国として取り組みを構築し，援助協調の方針，国連システム全体による推進体制，政府主体の実施、効果的な広報戦略といった適切な手法・戦略を取ることにより，国際的に高い評価を受ける国際プロジェク

トを構想，計画，実施することが可能であると結論付けている．

以上のように本研究は、国連における水施策を運営する経験を踏まえ，わが国主導の国連プロジェクトが成功に至る理由を，同様の他の国連プロジェクトとの比較の上で抽出し，我が国の国際貢献が正当な国際的評価を得るために何が重要であるかを示唆するものである，わが国の今後の国際協力のあり方に有益な示唆を与えている．よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。